C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf園長だより　平成２９年６月号（20170630）　　　　　　　　　　　　　　　　　　園長　平澤　正則

ＰＴＡ　やらなきゃダメですか？

というタイトルの本を図書館から借りました。毎年この時期，石岡市ＰＴＡ連絡協議会（小・中学校のみ）主催の研修会に講師として参加するため，ＰＴＡについて考えることが続いています。今，ネット上で「ＰＴＡの課題」で検索すると「ＰＴＡの任意加入」という話がトップに出てきます。現在ＰＴＡの入り口にいる幼稚園の1年目の保護者の皆さんにとっても気になる話かと思います。この先小・中と９年間続き，多くはさらに高校の3年間も続き，場合によっては大学などの入学式にも保護者の出席が求められることもあるようですので，人によっては１５年以上もＰＴＡに加入し続けなければならないという状況です。もちろん加入は任意ではあるのですが，そういうこともあって標題のように，やらなきゃダメ？となるのでしょう。

これにはいろいろな意見があって，やらねばという意見，できないという意見，それぞれ意見としてもっともだと思えることがほとんどです。しかし，やる（100）か，やらない（0）かという選択ではないのです。９０対１０や９９対１というやり方もあります。つまり，「やれる範囲でやる」ということが肝要なのです。字数の都合で私の意見だけを書かせていただきますが，私は「やれる範囲でやっていただきたい」のです。それは親としての義務であるとさえ思います。

　子どもが幼稚園なり学校なりに通うということは，必然的にその家庭や保護者以外の影響を受けるということです。それが集団教育の狙いでもあります。集団の中に身を置いて他と共に生活するということが社会という人間が生きる場での生き方を学ぶ機会でもあるわけです。極端な例になりますが，そこで出会った一教師がロクでもない人間であったとしても，それはそれで人生上の教訓にもなり得ます。そういう機会をもたせるために考え出された方法が現状の集団教育（義務教育）だと思います。そして，子どもの教育は最大の影響力をもつ保護者（親）抜きには考えられません。学校（担任の教師をはじめとする大人の集団）がその子に対していかに良い影響を及ぼそうと企てても親の参画なしでは教育効果が薄いことは論をまたないでしょう。しかも，子どもが相手にするのは教師だけでなくその他大勢の子どもであるわけですからそれぞれが互いに影響し合い，もはや保護者ひとりの影響力で事を運ぶことも済ますこともむずかしいのです。親と親が何らかのつながりを保つことが必要となります。

　そのような中でもう一度視点を子ども一人一人に向けた時，「私一人くらいＰＴＡにいなくてもうちの子どもには何の影響もない」といえるでしょうか。また，悪い影響を他から与えられた時，保護者はたった一人でどのように立ち向かうのでしょうか。ＰＴＡという組織は，本来そのような時のためにあるものです。

社会に一人立ちさせることと社会から孤立させることは違います。親が孤立を教えてはいけません。男も女も，老いも若きも，健康な人も病弱な人もすべてがすべてに関わりながら生きていかなければならない人生が子どもたちの前には立ちはだかっているのです。

　結論。ＰＴＡは「できない」ではなく，「できる範囲で」良いのです。まわりの皆と共にその時代，その環境を楽しんでほしいものだと感じています。・・・裏面（保護者アンケート調査結果）もごらんください。